

〈文章の解釈〉場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しよう
第2学年 「盆土産」三浦哲郎 作 光村図書

単元のねらい

作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。
作品に描かれている優しさや温かさなどを、表現に即して読みを味わう。

【授業改善のポイント】

文学的文章を読む際には、文章の時間的、空間的な場面の展開を踏まえたり、登場人物の言動を表す描写に広く着目したりして読み深めさせる指導が大切です。

螺旋的・反復的に指導を繰り返しながら、各学年段階において重点化された内容を着実に積み上げていくことが大切です。

◆各学年の内容の系統性

〈学習指導要領の目標（C読むこと）〉



【第1学年】

場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

【第2学年】

文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

【第3学年】

文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

〈第1学年及び第3学年で取り扱う単元の例〉

第1学年	第3学年
<p>星の花が降るころに【光村図書】</p> <p>場面の展開や登場人物などの描写に着目して、作品を読み深める。</p>	<p>形【東京書籍】</p> <p>場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を評価する。</p>
<p>確認しよう</p> <p>時間や場所、中心に描かれている人物を視点とし、場面の展開に着目して出来事の発端、やま場、結末などを確認する。</p>	<p>確認しよう</p> <p>〈時・場所・人物・出来事〉を基に作品の設定を確認するとともに、語句の効果など、表現上の工夫をとらえる。</p>
<p>読みを深めよう</p> <p>登場人物などの描写に着目しながら人物相関図を作り、登場人物の気持ちやものの見方、考え方の変化を整理してとらえる。</p>	<p>読みを深めよう</p> <p>場面の展開に沿って登場人物の言動に着目して、登場人物の考え方の変化をとらえ、題名との関連を考える。</p>
<p>自分の考えを持とう</p> <p>登場人物の描写や場面の展開に着目して、この後、作品がどのように続いていくかを考えて話し合う。</p>	<p>自分の考えを持とう</p> <p>小説「形」とその基になった古典作品を読み比べて、設定の工夫やそれによる作品の魅力について話し合う。</p>

◆「盆土産」を扱った学習の流れ

確認しよう

三部構成のそれぞれの部分にどのような内容が描かれているのか〈時・場所・人物・出来事〉の視点で整理する。

読みを深めよう

人物の言動や様子が描かれている表現を抜き出し、そこから読み取れる人物の人柄や心情について考える。

自分の考えをもとう

優しさや温かさが表れているところなど、いちばん印象に残る場面を選び、その理由について話し合う。

授業の例

Point

「描写に着目」して、「人柄や心情を読み取る」ことをねらった授業において、一部分だけに着目して読み取ってしまうことがあります。文章全体の構成や流れを考えることが大切です。本単元においても、**題名に着目し**、「土産」ではなく「盆土産」という言葉の意味を確認することで、**文章全体に目を向けさせ**、読みを広げたり深めたりすることができます。



描写に着目して登場人物の人柄や心情を読み取りましょう。

最後の「えんぴフライ」という言葉に、主人公の「早く帰ってね。」という父親への気持ちが表れてるわ。



たばこをふかす父親は照れてるんじゃないかな。

墓地での様子から、祖母はもっとえびフライが食べたかったのでは？



Point

まずは、人物の言動や様子が描かれている表現を抜き出させましょう。その表現を根拠に、自分なりに考えたことをノートに書かせるなど、生徒一人一人に考えをもたせましょう。

う〜ん、その場面から読み取ろうとしているのはわかりますが…。では、**題名の「盆土産」という言葉に着目しながら、全体を通して読んでみましょう。**お土産は何でしたか？誰が、誰に買って帰りましたか。

「えびフライ」です。父親が、主人公や姉、祖母のために買ってきたんだよね。



そうですね。でも、それだただの「お土産」になってしまいますよ。「盆土産」という言葉の意味を考えながら、もう一度読んでみましょう。



えびフライがなぜ「6匹」だったのか。つまり、父は、亡くなった母や祖父の分も買って来たのだということに、主人公はお墓で気づいたのかも。だから、最後に「えんぴフライ。」と言ってしまったのかもね。



父はお墓に眠っている母親や祖父のことを考えながら、たばこをふかしていたのかも。すぐに東京へ帰るのも辛いね。



元気な孫や家族思いの父親を見ながら、亡くなった母親や祖父に向けて、祖母はどんな思いで念仏を唱えていたのだろう。家族の健康を祈っていたのかもしれないな。



Point

全体を通して作品の構成や登場人物の描写に着目させたことで、生徒の考えが深まりました。また、ペアやグループで友達と考えを交流させることで、自分の考えと関連付けながら、考えを深めたり広げたりすることもできます。

楷書と行書の違いを理解しよう 第1学年 行書の書き方を学ぼう 光村図書

単元のねらい 行書の特徴を知り、筆使いを理解して書く。

【授業改善のポイント】

行書は、読みやすく速く書くことができる書体です。行書を書くためには、行書の特徴である「点画の丸み」や「筆脈（点画の連続・点画の変化・点画の省略・筆順の変化）」を意識させることが大切です。

◆各学年の内容の系統性

＜学習指導要領 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（書写に関する事項）＞
【第1学年20単位時間程度】 【第2学年20単位時間程度】 【第3学年10単位時間程度】

・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

・目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

・身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

中学校の書写に関する事項は、文字の書き方に関する内容と、文字文化に関する内容で構成されています。



◆単元の流れ（行書の書き方を学ぼう）

第1～2時 行書の特徴

行書の特徴を知り、滑らかな筆使いを意識して書く。

第3～4時 点画の方向や形の変化

点画の方向や形の変化を理解し、筆脈を意識して書く。

第5時 生活に生かそう

今まで学習してきたことを生かして書く。

授業の例

Point

生徒自身が行書の特徴に気づき、どのようにすればこれらの特徴を生かした書き方ができるのか考えるような主体的な学習にしましょう。



次のすべての文字を5秒以内で書き写しましょう。読める字で書きましょう。始め！

楷書と比べてどこが違うでしょう。違うところを見つけて、グループで出し合いましょう。



楷書は、直線的で角ばっている感じがします。

速く書いたほうは、曲線的で丸みがあって柔らかい感じがします。



折れの部分が丸くなっています。

字の形が変わっていて読みにくいところがあります。

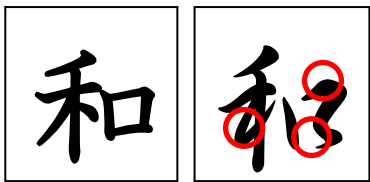


画がつながっています。



月日は百代の過客

速く書いても、読みにくくならないために、行書には特徴があります。特徴が見られるところに○を付けましょう。なぜ、そのような特徴が生まれたのでしょうか。



できるだけ速く次の画に行くために、点は省略され、払いが折れに変わっています。

口の右上の部分も、折れがやわらかい丸みのある折れに変わっています。近道をしているので、確かに速く書けます。

口の最後は閉じないで、次の字につながっているように見えます。少しでも速く次の字につながろうとする筆の動きが見えます。

点画から点画へ書き進めるときの「つながり」を筆脈といいます。筆脈を意識することで、行書を速く美しく書くことができますね。

Point

毛筆を用いて学習したことを、鉛筆、ボールペンやフェルトペンなどのさまざまな筆記具を用いて、生活の中で生かせるようにしましょう。

◆用語の整理

教師が用語を適切に用いることで、生徒への理解を促すことができます。

行書

速く書きやすいという特徴に加え、速く書いても読みにくくならないという特徴があり、日常的に使いやすい書体。(引用 東京書籍)

筆脈

文字を構成している点画の一つ一つが気持ちのうえで、また、形のうえでもつながりをもっていること。点画のつながり。(引用 光村図書)

楷書

読みやすい書体だが、速く書くことにはあまり向かない。(引用 東京書籍)

筆脈

線から線へ、点画から点画へ、文字から文字へと移る際の文字のつながりのこと。(引用 教育出版)

◆国語で身に付けた力を他教科等・学校生活で活用

国語で身に付けた力は、学校生活の中で活用することができます。習得した知識・技能を活用することで、さらなる知識・技能の定着を図ることができると考えます。

Point

目的や必要に応じて書体を選ぶ機会を増やして、意識的に学習成果を生かすよう指導することが大切です。学校生活のさまざまな場面で、主体的な文字の使い手になるきっかけをもたせるようにしましょう。

